

「すべての命を守るため」 大名町教会の取組み
 福岡市環境局家庭ごみ減量推進課から
 「食品ロス」ってご存知ですか？

日本の司教団は、日本訪問で教皇フランシスコが発信されたメッセージに伝えるため、毎年9月1日～10月4日の1カ月余りを「すべてのいのちを守るための月間」とするこ

- この月間に、アベイヤ司教様からは、メッセージとともに具体的な取り組みが示された。さつそく大名町教会では、
- 地球環境の実態について学習し、エコロジー教育を推進する。
- 行政、自治体、環境保護団体などと連携して活動する。



福岡市環境局の田中和美氏

大名町教会はこの呼びかけに
 応え、福岡市環境局・家庭ごみ減量推進課と連絡を取り、福岡市のごみの現状やごみの出し方、また食品ロスについ

て、「出前講座」という形で出向いていただき話を伺った。



映像やクイズを交えて、目からウロコの話

10月18日(日)10時30分
 ミサ後、11時30分からの開始
 でお昼も挟んでしまう事から
 も、参加者は50名ほどと少な
 目ではあったが、担当の福岡
 市職員の方の、スライドを使
 った分かりやすい説明とユー
 モアを交えた話術に全員が引
 き込まれ、実りの多い時間と
 なった。

◆参加者の気づきの声

「福岡市のごみの量は、年間
 ペイペイドーム約2杯分。
 現在2か所ある埋め立て場
 も、運ばれる量からして孫

の代までは持たない。」など、
 問題というより、もはや脅
 威であること。

「使い捨てライターは燃える
 ゴミに出す。ホツカイロは
 燃えないゴミへ」など、知
 っているようで、意外と間
 違っていたゴミ出し方法。

また食品ロスについては、「世
 界中で食べ物に困っている
 国や人々を援助しよう」と集
 められる食品の量に対し、
 日本ではなんとその1.6倍
 が食べられるのにごみとし
 て捨てられている。」

映像やクイズを交えた講師
 の方のお話によりとても楽
 しいひと時でした。

最近、レジ袋が有料になる
 など、環境やごみ減量につ
 いて関心はありましたが具
 体的にどうしたものか分か
 らないことばかりでした。

その中で家庭から出るごみ
 で、「雑ガミ」ということを
 初めて知りました。これま
 で燃えるごみとして出して
 いたものが、ちようとしま
 分別で資源として利用され
 ごみ減量にもつながること
 などなど目からうろこのお
 話でした。

後半の「食品ロス」のお話
 は「賞味期限」と「消費期
 限」の違い。私たちの家庭
 から無駄に捨てられる食べ
 物が世界の貧困の解消につ

ながりますとお聞きし、節
 約は愛につながる、など新
 たな気付きを頂きました。
 土曜・日曜に区役所に設置
 しているリサイクルゴミ置
 場に持って行くことを実行
 します。



今後このような企画をと
 期待します。

生ゴミは水分がほとんどで、
 焼却にかかる燃料費のお話
 を聞き、早速生ゴミを新聞
 紙に広げて水分を取って出
 すように心がけています。

職場では、燃えるゴミも細
 かく分別していなかったの
 で、みんなが捨てたゴミの
 分別に気をつけるようにし
 ています。

通勤途中の道で、職場の近
 くで見かけるゴミを拾って
 いる人を見かけたことがあ
 りました。わたしもやろう
 と思いましたが小さなトン
 グを準備しようと思いま

☆健全なる地球は、私たち一人
 ひとりの手に掛かっている。
 ☆わたし達の子孫に、どんな地
 球を残したいですか？



皆さんが見上げているのは、アンジェラスの鐘。金曜日の14時になると、一人、二人と集まって来る。インフルエンザが増える季節も近い。コロナ感染拡大への細心の注意をあなたもわたしも心がけたいものです。



車を止め、コンビニのドアの前でマスクを忘れているのに気づき、慌てて車に戻りマスクを着ける。去年も、寒い季節にマスクは使っていたが、忘れたと慌てることはなかった。マスクは、私と目の前の人を守る。



3本目の千羽鶴は、祝別され1階正面入り口に置かれました。道行く人々と共に、終息と医療者、エッセンシャルワーカーの方々へ感謝を込めて……。



会長のつぶやき

「心を満たすもの、事、人」

♪涙のうちに種まく人
♪は、喜びのうちに刈り取る

コロナ禍の中での生活も、早10か月。今やコロナと共に生きるすべを得ているようです。

コロナが憎い、邪魔ではなく、コロナが示しているものをとらえ、考えることも大切でしょう。

反面、コロナにより、大きな苦しみを抱えておられる方もたくさんおられます。先日、福岡ホスピスの会が哲学外来、「ぬくみカフェ」に参加させていただいた。多くの方が

様々ながんに侵され何かを求めてカフェに集い、勇気と力をいただいてる姿を見て「これこそ」が大切なものだと思

感したのです。お一人お一人、切実なお話を心の底から、あふれる思い

で、涙ながらにお話しされるのです。私は2年前に喉頭がんで亡くなった義父の闘病生活の話をし、分かち合いました。

共有し共感し共鳴するお話。そこには言葉の処方箋なるものがあり、それは、私たちの心を満たし、笑顔にし、そして初対面の方でさえも兄弟姉

妹にさせてくれるのです。皆さん十字架を背負いながらも、絶望のある所に希望を、悲しみのある所に喜びを、闇のある所に光を感じているようでした。

平和を願う祈りの種をそれぞれが蒔き、蒔かれていくようでした。

教会は、私たちは『主の教え』を心豊かにできる『祈りの家』。そうです。教会こそ、心を開いて聴き、見る場です。ミサ後にコロナとともに生き、

『喜びの種をまくカフェ』を近い将来立ち上げていきたいと思います。ご意見、ご提案をお待ちしています。

議題は、アベイヤ司教様のメッセージです。お一人お一人の小さな声を聴き、み言葉を行うものになりたいものです。

大名町教会信徒会会長

F・ザベリオ 濱崎 公夫

大名町教会10月の現勢

◆2004年に現勢を掲載しはじめて、初の報告なしの月です。

これもコロナ自粛の影響でしょうか。一日も早い終息を祈りましょう。

宣教司牧評議会

【検討事項】

- 1 すべての命を守るための月間、大名町の取り組みについて
- ◎いのちを守るための出前講座を10月18日(日)、10時30分ミサ後実施。テーマⅡ『食品ロスとごみ問題』大聖堂にて、約50名の参加あり。
- ◎美化活動・能古島海浜清掃活動を、福岡市の活動と連携し検討。

- 2 クリスマスについて
- ◎クリスマスカードの配布については、コロナの情勢を考えた上で、次回会議にて検討。
- ◎聖書と典札：韓国語、ベトナム語の発注検討。

- ◎ミサの時間と回数について
- ・時間について次回検討
- ・ミサ回数は 12月24日に3回
12月25日に2回
- ミサ時間は、後日発表。

- 3 街頭募金について
- ◎例年12月に実施している。11月会議にて検討。

- 4 信徒総会意見への対応について
- ◎司牧評議会にて審議の上、改善事項を報告する。

- 5 消防訓練の振り返り



消火器

- ◎10月11日(日) 10時30分のミサ後実施。
- 消火器10台を使い、消防訓練。
- 消防署員による講評。

- 6 七五三の祝福式
- ◎11月15日(日)、10時30分ミサの終わりに実施。

- 7 初聖体式
- ◎11月22日(日) 対象者6名。(日本語ミサ4名、英語ミサ2名)。

- 8 ミサ案内板の補修について
- ◎ミサ時間について差し替え可能な看板に変更予定。

- 9 清掃業者による清掃について
- ◎カーペットのカビ対策のため業者への見積取り実施。また講堂カーテンにもカビが発生しており、コインランドリーにて洗濯してみよう。その後対応を検討する。

- 10 美野島司牧センター支援募金について
- ◎10月25日(日)、3回のミサ後実施。皆様の支援に感謝。

- 11 神学院祭について
- ◎11月3日(火)、オンライン開催。大名町教会から1家族出席。

- 12 礼拝会への寄付物品について
- ◎聖堂入口に回収箱設置し、11月22日まで受付。

- 13 司祭養成基金募金活動の再開に

- ◎コロナの影響で募金活動中断中。
- ◎使用済み切手の回収について
- ◎10月18日より回収開始。

【報告事項】

- 1 来年度は、大規模工事予定なし
- 2 光熱費、水道代金増について
- ◎ウイルス対策のための窓開放、そして高架水槽の水の交換実施による。

- 3 『家庭の友』12月号記事掲載
- ◎タイトル：「カトリック教会と市民クリスマス」。11月10日頃発売。
- ・市民クリスマスと大名町教会の記事掲載あり、1冊300円。



12月号に載ります。

- 4 11月の和田墓地ミサは中止

- 5 「こじか」の配布について
- ◎小学生の家庭に配布。中高生には「YOUCAT」購入検討。

- 6 山元眞神父による講演会案内
- ◎11月23日(月)「勤労感謝の日」大名町教会にて教区信徒協主催の講演会。後日ポスター掲示。コロナ禍での人数制限あり。

受付・案内係りよりのお願い

コロナ感染対策を行っている中で、ミサ中の聖体拝領時などのご協力に感謝致します。社会も教会も、少し緩んで来ているように感じます。大名町教会は、町の中にあり様々な方が来られています。今一度感染予防の為、ミサ終了時も司会者の指示に従って頂きますようお願い致します。また、お帰りの際も密にならないよう、ご案内致しますので、ご協力宜しくお願い致します。
*また、案内のご協力出来る方もお待ちしております。

食前後の祈り | 教皇フランシスコ深い勧め

- 食前食後に手を止めて神に感謝をささげること。食前食後の祈りは、わずかな時間であっても、わたしたちのいのちが神の手の中にあることを思い起こさせてくれる。
- それは、被造物という贈り物への感謝の思いを強め、それを提供してくれる人々の労働をありがたく思い、困窮の極みにある人々との連帯を再確認する時。